

世界のソーシャル・ビジネス

欧州編
スイス

隔週刊の「SURPRISE」。国内100カ所以上で販売

社会的弱者知るツアー
当事者がガイドで好評

スイスの人道支援団体スープリーズ協会が行っている「町ツアー」が、人気を呼んでいる。研修を受けたホームレス経験者(貧困者)が市民を連れて町を歩き、弱者向けの施設や店について説明する。個人のほか、学校の社会見学、企業の研修としての申し込みも増え、弱者理解が進んでいる。

(チューリヒ=岩澤 里美)

スープリーズ協会は、ホームレス状態の人が質の高い雑誌を町中で販売して、収入を得られるよう支援している。雑誌「スープリーズ」は1冊約650円で、うち約300円が販売者の収入になる。2017年は400人以上の販売員が44万部を売り、約1億4200万円が彼らの収入になった。

これに加え、同協会が2013年にバーゼル市で始めた新しい試み「町ツアー」も、貧困者の自立の一助になっている。貧困者自身がガイドになり、町を案内し、徴収した参加費の一部が収入になるのだ。

「ホームレスの生活」「生活保護受給者たち」「虐待や暴力を受けた女性の保護と自立」などテーマ別にいくつかルートがある。通年開催で、1回2〜2時間半。5人催行で、最大定員20人(参加は14歳以上を奨励)。参加費は1人2700〜3200円、学生などは半額だ。オンライン申し込み状況を見ると3カ月前の予約もあり、ツアーへの関心の高さがうかがえる。

2014年からはチューリヒ、2018年からはベルンでもガイドたちが活動中だ。

普段は見えにくい場所へ

チューリヒで「アルコールや薬物の問題を抱える人たち」ツアーに参加してみた。担当は、ガイド歴4年のダニエル・シュトゥッツさん(40代)。就職がうまくいかなかったことや、事故に遭ったこと、ギャンブルや薬物への依存、ホームレスの経験を話し、多額の負債を返済中であることも隠さず自己紹介した。

弱者用の一時居住施設(泊まらなくてもホームレスの人は無料で食事や洗濯ができ、ネットも使える)、ホームレスの人専用クリニック、各種依存症の人を支援する施設など、計6カ所を歩いて回った。それらは繁華街内にあるが、

普段は見過ごしていた。各施設で、サービスの内容についてシュトゥッツさんが解説し、施設スタッフがさらに説明を加えることもあった。寝室など見学できない場合もあるが、利用している弱者たちがいると肌で感じられる。

参加者たちは積極的に質問し、ツアー後は「こんなツアーは珍しい」「説明がとても上手」「弱者の人たちと向き合えた気分になった」と話していた。市民の側の弱者理解が、より広まっていきそうだ。



チューリヒのガイド、ダニエル・シュトゥッツさんは、金細工を学んでいる。解説は暗記して流暢だ